

ふかまちのまど

第二〇号 〇四年〇五月一日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 六三三三八二

ふかまちのまど発行 十周年を迎えご挨拶

深町町内会連合会
会長 西本一二三

深町町内会連合会より、ふかまちのまど発行十周年を迎えるに当り一言お礼を申し上げます。平素は町内会連合会の活動に對しまして多大のご協力を頂き誠に有難く深く感謝いたします。さて、深町町内会連合会が一九九三年（平成五年）に結成され、翌年五月に広報紙「ふかまちのまど」を発刊されて今年で十周年を迎えることが出来ました。この間一ヶ月も休むことなく発行できましたことは三原市各町内においても深町だけで、これも町民皆様方のご協力と発刊担当者（編集室）のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。ふかまちのまど発刊に当たり十年間の町の発展をふりかえつてみますと、深町の準農村地域が段々と様相を変えてきました。学校教育面では如水館中学・高等学校が出来たこと、社会福祉施設として特別養護老人ホーム・サンライズ大池が出来たこと、中小企業の進出、住宅団地等の進出で深町は大きく変貌してきました。

尚寿会だより

尚寿会会長 幸谷 満夫

一、定期総会（四月十四日）
甲山町今高野に二十人が参加して、総会、入湯、会食を行いました。帰途にはふれあいの里でしだれ桜を鑑賞しました。
総会では、行事・決算報告、行事計画・予算案を承認しました。会員増加対策、旅行の実施方法について意見がありました。

子ども会だより

子ども会会長 小川和彦



町内の皆様には、平素より子ども会活動に格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

平成十六年度の役員紹介

- | | | | |
|--------|------|----|--------|
| 会長 | 小川和彦 | 中組 | 中川正美 |
| 副会長 | 小林裕幸 | 上組 | 岸正勝 |
| 会計 | 南ちとせ | 中組 | 岡村宣行 |
| ソフトボール | 屋敷 猛 | 中組 | 小林裕幸 |
| 監督 | 小林裕幸 | 中組 | キックベース |
| 部長 | 小林裕幸 | 中組 | 監督 |
| キックベース | 小林裕幸 | 中組 | 煙中資史 |
| 監督 | 煙中資史 | 中組 | |

本年度は、この役員と七一名の子ども達と一緒に活動していきます。
深町の未来を創造する若い力に皆様方の愛情を頂くと共に、時には、遠慮のない叱咤激励を頂きます様お願い致します。
尚、この度、ソフトボールチームのユニホームを新調させて頂きました。町民大会の行進をさせて頂きまして誠にありがとうございます。

平成15年度深町尚寿会収支決算報告書 (単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	103,500	運営費小計	83,649
補助金	46,560	1) 会議費	6,959
助成金	50,000	2) 旅費	3,500
雑収入	6,514	3) 事務費	7,990
旅行負担金	127,138	4) 慶弔費	27,000
繰越金	254,919	5) 分担金	10,000
		6) 雑費	28,200
		活動費小計	340,453
		1) (生き甲斐の為)の活動費	307,424
		2) 健康活動費	33,029
		繰越金	164,529
合計	588,631	合計	588,631

平成15年度子ども会収支決算報告書 (単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰越金	315	保険料	33,000
ソト・キョク	5,500	海水浴	155,046
連合会補助金	150,000	6年生を送る会	29,715
町内連合会	200,000	ソフトユニホーム代	337,000
PTA助成金	40,000	ソト・キョク期	56,318
ごみ処理券収入	62,840	諸費	620
廃品回収	9,165	慶弔費	5,000
保護者負担金	149,000		
預金利子	1	繰越金	122
合計	616,821	合計	616,821

深町各種団体五月行事予定

- ◆町内会連合会 九日
- ◆体育委員会 三十日
- ◆町民運動会 三十日
- ◆小学校・幼稚園
- ▼参観日 十一日
- ▼交通安全教室 十四日
- ▼保健実習 十八、二十日
- ▼運動会 三十日
- ▼振替休業日 三十一日
- ◆女性会
- ▼懇親会 上 第三水曜、中 第一月曜、下 第二日曜



五月は子供の日に続いて母の日があります。母のことについて、忘れることのない言葉があります。私が小学三年のとき、焼いたにぎりめし二個を新聞紙に包んで昼食の弁当として、学校へ持って行っておりました。ある日、そのにぎりめしを食べていたところ、担任の石井良雄先生が、「君のお母さんはいいお母さんだね。毎日おにぎりを作ってくださって、しかも丁寧に網で焼いて、美味しいだろう。優しいお母さんだね。」と言われました。

展望席

それまで、何も思わずに毎日冷たくなったにぎりめしを黙々と食べていたのですが、先生のその一言で、子供心にも初めて母の優しさ、温かさというものを感じ、先生の言葉が、今も心の奥深く沁みこんでいるように思います。もしも、「お母さんに弁当を作ってもらいなさい」とでも言われたら、幼い心はどんな思いがしたでしょうか。
食事をする時、「いただきます」と言いますが、これは食べ物（米や野菜、魚など）の生命をいただくという意味が含まれています。食べ物の生命を犠牲にして人の生命が保たれていきます。それなのに、食べ物の栄養やカロリーを云々、好き嫌いを言ったり、食べ物を捨てたりするのには食べ物に対してはなはだ失礼な気がします。
物事は科学的に、冷静に見ることが大切ですが、視点を変えて、常々温かい心で見ることが、もともと大切だと思います。

発行十周年を迎えて

初代町内会連合会 会長 高崎 修

ふかまちのまどは、今月号をもって発行十周年となりました。「まど」がめでたく十周年を迎えるにあたり、初代編集長平岡功一氏、二代目編集長紙谷謹二氏をはじめ編集委員各氏の並々ならぬご尽力の賜物と深く感謝するものであります。

思い起こせば町内会連合会が発足して間もなく、当時中組副会長であった藤川敏和氏から「深町にも新聞を」との提案があり、新しいアイデアと評価され発行につながったと記憶しています。

発行の目的が「居ながらにして町内の動きが判ること」であったので、町内の各種団体において活動状況を詳細に掲載して頂くこととしました。各団体の動きが一目で判るようになったのは素晴らしい成果でありました。この活動報告は、途中多少の曲折を経つつも現在にながっています。



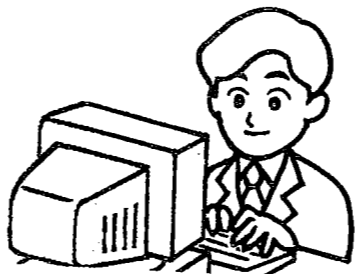
この際私見を許して頂くならば、記事の主流は、活動・広報等で固苦しいものになり勝ちなので、今後は、町民の生活に根ざした身近な問題についての投稿が多数掲載されることを望みたい。町民の色々な思いが紹介され、共感が広がり、一つの運動につながるならば非常に喜ばしいことである。そのためには本音が言える匿名記事も許されてよいのではなからうか。

あの頃の思い出

編集長 平岡功一

「深の住人ですが、いま深がどう動いているか解りません。情報の媒介機関が必要ですよ」高崎会長。

一九九三（平成五）年四月発行した「深町町内会連合会」初代会長、高崎修さんの強い要望で同年六月、情報誌「町民活動記録」として発足しました。現在の「ふかまちのまど」は翌九四（平成六）年五月に第一号が発行され、現在に至っています。スタート時は、深町の各種団体（小学校、尚寿会、婦人会、消防団、体育振興会、子ども会、町内会、町内会連合会）の行事予定と結果を報告していました。発行から一年経過し、紙面のマンネリ化を防ぐため、深町在住の皆さん、当町出身で深町以外に住んで居られる方、そして何かの縁で深町で働かれたことのある方々に、思い出や、提言をお願いしました。



当時を思い出して一番うれしかったのは、皆さんの協力で原稿集めの苦労がほとんどなかったこと、これは現在も続いているように嬉しいことです。九四年、山中学園移転開校、九九年、サンライズ大池開所と、かつての農村が教育と福祉の町に大きく変わりました。「まど」も開かれていきます。

「ふかまちのまど」発行十周年に寄せて

元下組 金堀伍一

「ふかまちのまど」発行十周年おめでとうございます。十年と言う長い間の編集室の皆様、御苦労と御努力に敬意を表します。継続は力なりと申しますが、本当に立派な事だと思えます。この度は、「ふかまちのまど」をお送りいただき、ありがとうございます。繰り返し読ませていただきました。私にも一筆と言うことですが、私事で恐縮ですが、よる年波には勝てず、昨年夏より埼玉の娘夫妻のもとで、報恩感謝の、余生を過ごしています。正月には、もう一度と念願であつた京都本願寺参りもさせてもらいました。

深小学校の思い出

元深小学校校長 瀬畑三代子

「ふかまちのまど」発行十周年、誠にありがとうございます。深小学校・幼稚園在任中は、温かいご支援を賜り厚くお礼申し上げます。子どもたちを温かく見守っていただきありがとうございます。

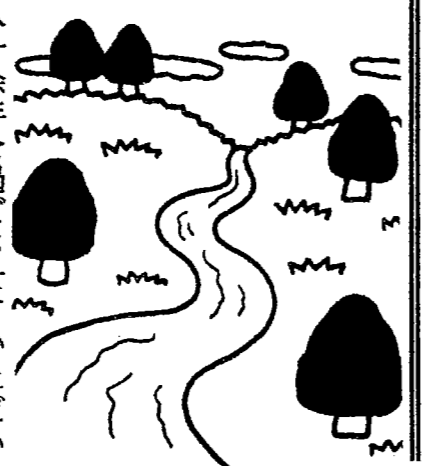
深小学校へ続く道は、二中の移転、三原東高等学校、中之町・小学校、そして如水館中・高等学校へと続きます。まさに、学園道路です。私の通った二年間は、教育の町として生まれ変わろうとする土音も高く道路工事の続く毎日でした。平成十二年四月から平成十四年三月までお世話になりました。教育界も激動の二年間でした。学校完全週五日制、新指導要領完全実施に向けての移行期でもありました。



広島県では、子どもの基礎基本の学力定着が叫ばれていました。先進校に学びながら、何よりも子どもの変容を一番に考えました。

まず、「チャレンジタイム」を教育課程に組み、全校一斉に計算力アップに取り組みしました。廊下にケースを置き、プリントをいっぱい刷って定着を試みました。

子どもたちは「わかった！できた！」という喜びと、目に見えて速くなっていく成就感を味わいました。意欲的に取り組むようになり、次に「総合的な学習時間」の移行期としての取り組みとして「テーマタイム」を設け試行しました。



八十余年を過ごさせてください。深町は何と言っても懐かし、色々と思い出に浸りました。それと言うのも何ですが、深町を離れた者にも、会費等納めさせてもらって、「ふかまちのまど」を送ってもらえたら等と勝手な事を考えたりもしました。とにかく高齢のため、まとまった事も書けません。深町の有縁の皆様、感謝申し上げます。末筆ながら、皆様の御健康と御多幸を、遠く埼玉の地より願っています。合掌▲▲

この事を平成十三年度には、地域公開ができた事をうれしく思います。しかし、これは、地域の方々のご支援がなくてはできません。きなかつた事です。

- 1、郷土の文化「深町太鼓おどり」を調べよう
- 2、英語で話そう
- 3、楽しく絵を描こう
- 4、けん玉こま廻し名人になろう
- 5、昔遊びを楽しもう(A)竹の水鉄砲、弓矢、竹細工
- 6、昔遊びを楽しもう(B)手作りお手玉、おはじき、アクセサリー等

の六つのテーマに、三年生以上が縦割り分かれ、楽しみながら学習しました。特に「太鼓おどり」は、本場三度まで太鼓造りの見学に連れて行っていただきました。また九月には、夜公民館で、また九月には、夜公民館で、バチさばきやリズムの取り方を教わり、運動会や秋祭りに継承されている事等素晴らしい事です。壮青会の方々のお力添えは、三原市より「青少年の健全育成」の団体として認められ、平成十五年十一月に表彰を受けられました。誠にありがとうございます。

今も、あの力強い「ヤッサー」のかけ声と太鼓の音が蘇ってきます。それぞれのテーマでお世話になった方々、尚寿会や女性会の惜しみないご協力をいただきました事、忘れられません。ゲートボール大会、しいたけ作り、いい事だけを体験させてもらった米作りや野菜づくり。百匹以上のかぶと虫、中世山陽道、稚子峠を歩いた小雪の舞う日、「トトロの森」のハチ出現等、書ききれない程の思い出が浮かびます。



最後に「緑の少年団」の事です。広島森林公園、小原工業団地、地元深町の小林さんの山の植林をしました。植え終わった時のこころよい風がほおに優しく感じました。

あの苗木が大きく伸びるよう、そして深小学校の子どもたちも郷土深を愛し、自然を愛し、心豊かに健やかに成長するように願ってやみません。校長として苦しかった事、しんどかった事も多くありました。が、その間、いつも温かくご支援下さいましたPTA会長様を始め地域の皆様方、大変お世話になりました。抱えられない程の菜の花を届けて下さったあの日から、忘れ得ぬ深小学校での二年間となりました。ありがとうございました。▲▲

…深小だより…

「ふかまのまど」
十周年によせて

深小学校長 藪本幸子
今年度もピカピカの一年生と幼稚園も組の元気な子どもたち、そして5名の転入生を迎え、新学期がスタートしました。
小学校は七十一名、幼稚園は十一名です。

深町の豊かな自然と温かい人たちに育まれ、大きく成長してほしいと願うばかりです。

深小学校では、登校してくるとランドセルを置くのもそこそこに子どもたちは校庭に出て遊びます。サッカーをしたり、野球をしたり、一輪車に乗ったりとさまざまですが、学年に関係なくいっしょに遊んでいます。このように異年齢の集団で遊ぶことは最近ではあまり見られなくなっているのですが、本校ではこのようによくいっしょに遊んでいます。これは深小のとてもよい伝統だと思っています。

伝統といえば他にもたくさんあります。その一つが「新春ふれあい広場」とんどです。町内総出で盛り上げていただいて、子どもたちが楽しみにしている行事です。

また、毎年六年生が壮青会のみなさんに教えていただいている「深町太鼓踊り」も本校の伝統となってきました。六年生になると子どもたちは「今度は自分たちの番だ」とはりきります。

それぞれの皆さんが忙しいなかを学校や幼稚園の子どもたちのために骨身を惜しまず協力していただいていることに驚かされています。その一つ一つが子どもたちの成長のよい糧となり、思い出となると思っています。

私が二年前に深小学校に来させていただいたときに、学校と地域の結びつきが深いことに驚き、また感動しました。立派な郷土誌が作られていることにも驚きました。その文化的な風土の中で「ふかまのまど」が地域をつなぐ大きな力となり、さらに深町を文化の薫り高い町にしていると思えます。今はまだ子どもたちはその十分な価値に気づいていないと思いますが、きっと先で気づくことでしょうか。地域の力を頂きながら、子どもたちは成長しています。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

ご入学(園)
おめでとうございます



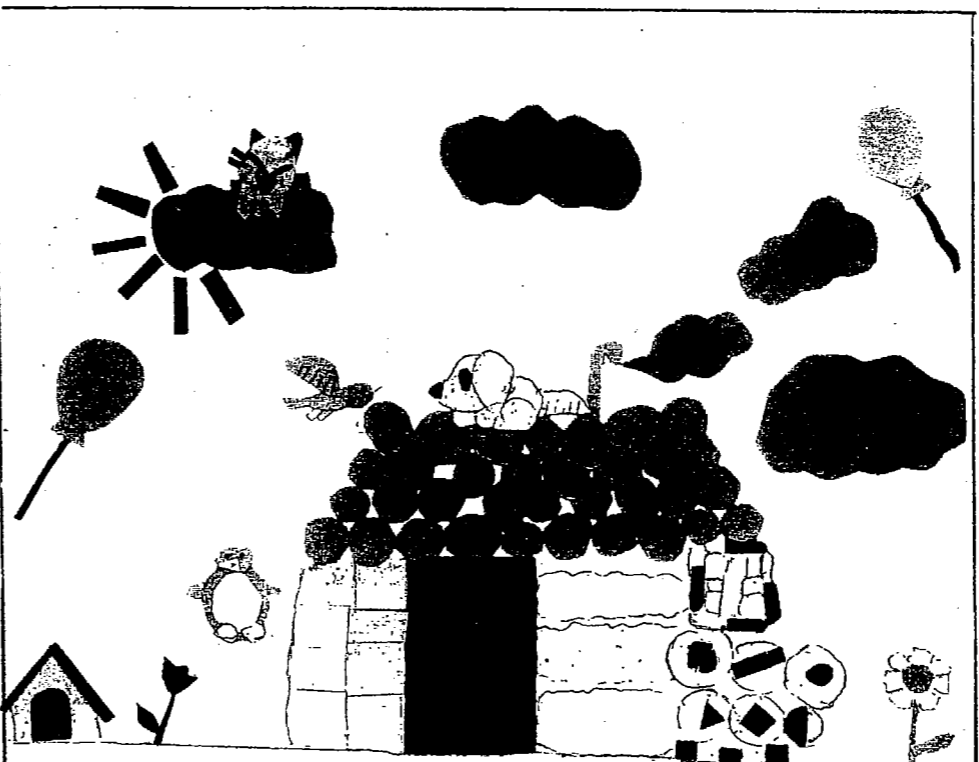
(年少組入園)

秋廣 千夏・石井 諒
一山 結加・河原 実里
柴田 采・高平 凌斗
西永 超一

(新一年生入学)

一山 周矢・今里 裕弥
奥原 成也・河原 淳太
西永 億幸
岸 鈴歩・高橋 菜里花
直井 紗実・中川 安奈
福島 桜・松本 陽香
山下 華穂

(敬称略)



深小卒・天木美菜見さんの画集より

二年生になって

がんばるじゅん

二年生 さいとろ ちあき

ぼくは、二年生になって、ピアノをもっとがらんぼります。一年生のときもならっていたんだけどあさとよるのねるときにやっています。でも、ときどきわすれてしまいます。でも二年生になったからわすれないようにしたいです。もうひとつは、てつぼうです。さかあがりとかがとくいです。でも、ほかにもできないのがまだいっぱいあります。それをたくさんれんしゅうをして、できるようにになりたいです。

「五年生になって」



五年 村田 蘭

五年生になって、登校班も一年生が入って前よりちよつと静かになったり遊びながらいっています。体育では初めての組体そのの練習が始まり、学校や家で練習して手のこうとこしと足とうでシップをはって、体中きん肉つうでシップだらけになってしまいました。今まで、組体そのはともかっこよかったので、成功するようにがんばりたいです。漢字は、むずかしい漢字がどんどん出てきます。ちゃんと覚えて次の漢字を習っていきたいです。五年生になると、準備やかたづけがあり、とても大変です。まだ、五年生、六年と二年ぐらいまするけれど、準備やかたづけがすぐわかるようにしたいです。

学校に、行く時

三年 河原 美穂

とうこうはんんに、一年生が二人はいって来たので、けががないように、学校まで、つれていっています。手をつないで、いっているの、よるこんで、いってくれるので、とても、うれしいです。わたしは、一年生と、いっしょに、いくのが、とっても楽しいです。六年生に、なっても、つれていきたいです。



「四年生になって」

四年 小林 健人

ぼくは、四年生になって、ソフットのレギュラーになるようにがんばろうと思います。体育でも、幅跳びや鉄棒をがんばろうと思っています。

総合学習の時間には、山や川に行つて、いろいろなことを調べたり、ゴミを拾ってきれいにしたり、川に住んでいる生き物について調べたりしていきたいです。

クラブは、さいばい部なので、花にちゃんと水をやったり草をとったりします。

友だちをたくさん作ったりしゅくだいを早くしたりしてがんばります。



六年 宮永 靖士

ぼくの目標は、だれに対してもやさしくすることです。

ぼくは、いつでもだれに対しても同じように接しているように、思わないからです。それに、もうぼくは最高学年なので、それなりに注意をしていきたいです。

そのためには、あまり話をしたくない一年生の仲間もつくっていききたいです。

最高学年なので、たてわり班などの仕事もあります。一年生の子が分かりやすいように工夫して話をしていきたいと思えます。